



保育士養成校との意見交換会

2.総会・保育所長研修会

3.第57回静岡県保育研究大会

4.各分科会報告(1～8分科会)

12.県保育研究大会に参加して

14.新規採用予定職員研修会

16.保育士養成校との意見交換会

18.各研修報告

19.専門委員会報告

20.支部だより

📷 写真提供: 静岡市 竜南こども園

平成29年度

静岡県保育所連合会総会 並びに 保育所長研修会

開催

期日 平成二十九年四月二十八日
会場 静岡市民文化会館

平成二十九年年度静岡県保育所連合会総会は、静岡県健康福祉部こども未来局・鈴木紀美代局長、静岡県社会福祉協議会・松浦康夫常務理事等、多くの来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

最初に後藤弘明会長より「最近保育施設の不適切な運営について報道が続いている。施設運営を含めた法人の透明性の確保やガバナンスの強化といった自助努力は続けていかなければいけない。子ども・子育て支援法にある、子ども達の最善の利益の保障と質の高い保育を提供すると



言う理念により我々は日々の保育と教育を行っている。不祥事はあつてはならない。また、処遇改善についても、関係各局が協力して静岡県版のキャリアパス体制の構築を目指している。現場の皆さんがやりがいやプライドを育てる職場であるように、皆さんの協力の下、これからも県保連として現場の声を届ける努力を続けていきたい。」と力強く挨拶されま

した。その後、鈴木局長、松浦常務理事からもお祝いのお言葉をいただきました。

次に総会に移り、議長に静岡市ゆりかご保育園・神野博行園長、副議長に浜松市立三方原保育園・飯田純子園長を選出し、議事に入りました。議案として第一号議案・平成二十八年年度事業報告・決算報告、第二号議案・会則の一部改正、第三号議案・会長指名理事及び監事の承認、第四号議案・平成二十九年



度事業計画・予算案の議案が審議され、承認されました。なお、会則の変更により、静岡県保育所連合会は、本年十月一日より静岡県保育所連合会として新たなスタートを切る事となりました。その後、今年度の新規加盟園が紹介されました。

総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師には静岡大学防災総合センター客員として活躍されている静岡大学教育学部教授、池田恵子先生をお招きし、「震災に備えて―地域との連携とBCP―』とい

うテーマの元に一時間半にわたってお話しをいただきました。近年の大規模災害被害の特徴として、高齢者等の要支援者の避難が困難であること。避難所に居られずに、被災した自宅や車中で生活する家族に対する支援の難しさがある。また、災害時の保育・教育施設においては、人的、物的な制約の中で、業務の何を継続・再開するのか、災害時特有の業務をどう行うのか。職員や利用者の安全の確保と、外部資源や受け入れ体制の構築など、



重要業務の内容や着手時期、完了時期を、災害の発生から三日後までの初期期、一ヶ月までの活動期①、一ヶ月後以降の活動期②の三段階に分けて全職員で共有しておくこと。地域と連携して、ど

んな動きが出来るのか確認をしておくことが重要だ。とご講義いただきました。災害は、いつ起きるか分からないからこそ、今出来ることは確実に実行しておくべきという対応の重要性を再認識させていただいた講演でした。

第五十八回 静岡県保育研究大会

平成二十九年五月十七日(水) 沼津市



今年度の静岡県保育研究大会は、県内東・中・西部の持ち回りとなって初めて東部担当となり、沼津市のプラサヴェルデを会場として開催しました。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」を主題とし、この度の制度改革を的確に捉え、変革の時代にある保育についてより一層深めていくべく、保育所・認定こども園の社会的意義と役割、保育実践などについて議論を深め、今後の保育の質の向上に寄与するよう積極的な意見交換が行われ、参加者同士が互いに研鑽を深めていきました。



あわせて、これから展開していく保育士のキャリアアップ制度の静岡県版として、この保育研究大会が大きな役割を持つことは明らかであり、静岡県こども未来局鈴木紀美代局長もその意義を認め、県内の保育関係者がさらに保育の質を高めていく上で重要な大会として展開することを期待されていました。

これからも参加者はさらに増える予想されます。どの園も保育の質の向上を目指してさらに研究を深めていくことを願っています。本大会が滞りなく、また盛会裏に終了できたことは、すべての関係者の方々のおかげとここに深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践

～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①東伊豆町 稲取保育園

保育士 竹内 和美

②牧之原市菊川市学校組合立

牧之原保育園

統括主任保育士

増田 茂子

③菊川市 認定こども園西方保育園

保育士 桐田由起子

保育士 赤堀千鶴子

議長 静岡市 美和保育園

園長 望月ひろみ

助言者 静岡産業大学経営学部

教授 漁田 俊子

記録者 静岡市 たんぽぽ保育園

園長 松川 由美

発表(一) 地域の文化に触れて、

豊かな心を育む保育を目指して

～地域を園に そして 地域へ～

近年、少子化や人口減少、核家族化が進み、地域の文化や習わしが消えそうなことが心配されている。地域の行事や習わしを保育計画に取り入れ、ともに経験してきた。五歳児は憧れの「ばかばやし」に取り組み、伝統芸能を間近で見て、憧れや興味・関心を持ち、多くの人と関わりながら地域文化に触れ楽しん

だ。子ども達が地域の人に支えられていることや、愛情を身近に感じ、関わりを喜び合う気持ち芽生え、周りの友達や大人とすすんで関わろうとする姿が見られた。

発表(二) からだを動かすっていいきもち♡

～発達に合わせた援助～

子ども達は、日々体をよく動かしているように見えるが、思うように体を動かすことができない子もみられる。発達にあった運動遊びをすること、基礎的な力を身につけ体を通いのまま動かせるのではないかと、年間を通して各年齢にあった運動遊びを学び実践してきた。年齢ごとの活動の違いや身体の構造を知り、それらをふまえた援助によっていろいろな遊びに挑戦する意欲がみられ、できた時の満足感や達成感を味わうことができた。

発表(三) 乳幼児期に培いたい

丈夫な体と心を育てる豊かな遊び

～生きる力を育む保育を目指して～

近年、社会環境や生活様式の変化で体動かし遊ぶ機会が減少していることから平成二四年幼児期運動指針が策定された。園の子ども達が置かれている環境や体力等の現状をアンケートや体力測定を行い把握した。また、運動指針に記されている運動の意義や期待される効果をふまえて園で行っている体を使った遊びを検証した。園の伝統になっている探検のよさを改めて確認し、乳幼児期の様々な運動経験が豊かな人生を送るための基盤づく

りの一つになっていることが確認できた。

助言者より

三発表とも研究の位置づけや視点がまともっており、よい研究だった。PDCAサイクルを回して実践の振り返りがされていた。新保育所保育指針にも研修の大切さがうたわれているが、研究を続けていくのは大変な面もある。しかし、保育実践を振り返ることで保育の質が向上する。具体的な自己評価も大切である。保育者として、どんな時も安全と愛着・信頼形成を座標軸としよう。その上に各園の保育がある。



第二分科会

テーマ 【配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて】

発表者 ①御殿場市 みなみ保育園

保育士 宮崎 純子

保育士 栗原 真帆

②興津北こども園

保育教諭 望月 仁美

③磐田市 いずみ第二保育園

保育士 一柳 水希

磐田市 風の森保育園

保育士 坂本真理子

議長 森町 摩耶保育園

園長 水谷 尚禎

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 袋井市 たんぼぼ保育園

園長 山崎正太郎

発表(一) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

～専門機関との連携と保育の実際～

二歳の女の子Kちゃんは想像以上に強いこだわりで向き合い方の難しさと保護者との間に一歩踏み込めない壁を感じた。専門機関に相談をして臨床心理士の先生と保護者面談に持ち込むことができたが、保護者の理解を得ることは困難であった。Kちゃんが現在、在園している保育園に状況を伝え、臨床心理士

の先生・保健師さんと連携してより良い保育を続けて来ています。今後も専門機関との連携を密にしていきたい。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援に向けて

～友達とのかかわりの中で育ちあう～

子どもの特性や発達様々である。支援サポート強化事業を通して専門家や他園の保育者からアドバイスを頂くことで自信を持つ対象児にかかわることができ、支援の幅が広がりました。応用行動分析やエピソード描き、サポートプランと照らし合わせて事例を検討することで子ども同士の姿と保育者の対応を見つめ直した。発達支援は配慮を必要とする子だけを考えて行うのではなく、周りの子どもたちとの関係性の中で育ち合っていることを理解することが出来た。

発表(三) 配慮を必要とする子どもと

家庭の保育の充実

～気になる子どもの保育と家庭支援～

近年、気になる子の姿が多く見られる。アセスメントシートを活用して多方面から子どもの実態を理解し、保育や環境を振り返ることとでその子の支援すべきところをおさえ、丁寧に保育することができた。アンケートからは多くの家庭が「子育ては楽しい」と感じている一方、二歳児の楽しいと感じる割合が他の年齢よりも低いこと、気軽に悩みを相談できる相手として保育士の割合が低いというこ

とが見えてきた。

助言者より

今回の発表は診断名が前面に出てこない内容になっていった。診断名は子どもを理解するための一つとしては有効だが、その扱いは保護者・保育者にとって難しいものだった。今回の発表ではAちゃんBちゃんの世界観があって、それが優先されて発表されていたのが素晴らしかった。我々が勉強するときには診断名が必要だが、目の前の子どもたちへの保育において診断名がどの程度の意味を持つのか改めて考える機会だと思う。



第三分科会

テーマ【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①御殿場市立印野こども園

園長 勝又 康代

御殿場市立高根第一保育園

副園長 阿部 真

御殿場市立玉穂第一保育園

保育教諭 安司 絵美

②牧之原市 牧之原市立坂部保育園

園長 大窪 妙子

保育士 八木 香里

③浜松市 認定こども園さじの里

主幹保育教諭 柳谷 翔

議長 沼津市 いずみ保育園

園長 十八公浄滋

助言者 常葉大学

教授 山本 陸

記録者 沼津市 いずみ保育園

主任保育士 橘田 浩代

発表(一) 職員の資質向上を図る

～職員一人ひとりが園全体のために 企画する園内研修～

御殿場市は市内の九ヶ園を中心に資質向上委員会を立ち上げ、三ヶ月ごとテーマを決めて各園主体的研修を行い企画も全職員が担当職員間でプレゼンテーションをした。ピラミッド的組織作りを目指し研修後はステップアップと言う研修通信紙を作成、意見交換や考

察をし、次回へと続けている。資質向上自己チェック表(九十三項目)も毎年度ははじめにチェックすることで弱い部分もわかり見直すことができ、研修後再度チェックし反省を生かす。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

～園の現状を見つめて保育士の取り組み～

園の研修の活用として毎月の園内研修と職員会議、そして市内牧之原市研修会参加の三本立てで行っている。月案を中心に月々のつまりきで保育を振り返ることにより同時に資質向上にも繋がる。園全体よりアドバイスを受けながら個々の行動観察をし記録をする。グループ討論をすることにより援助するポイントがわかり担任保育士自身の負担が減る。若い保育士のアイデアやベテラン保育士の経験が相乗効果となり、共通理解にも繋がった。

発表(三) 職員の資質向上を図る

～実習生指導から見直す保育の資質向上～

実習生と共に研修、話し合いをすることで指導する先生の資質の向上をも目的とした。実習生側の不安、担当する先生側の不安等、園内研修を含めてグループワークをする。研修することにより振り返りができ、一方的指導にも変化がでて、保育の学びの糧になっていった。指導の統一性、実習意欲の新たな発見も会議で見られた。

助言者より

テーマに沿って職員間、他園、外部研修、実習生などそれぞれ違った視点で発表されて発想が良く色々考えてあり、資質向上になる様に努めていた。資質向上のための研修は、以前は園長先生等の管理者が参加していたが最近は主任や他の研修担当の保育士の参加が多くなってきている。つまり受け身からの脱却をしている。園の風土についても研修の中で考えていくことが大切である。保育士の負担が多くなりがちな中、ワークライフバランスを整えキャリアの形成がされていくにはどう手助けをすればいいか考えていく必要がある。管理能力が求められている。



第四分科会

テーマ【地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて】

発表者 ①富士宮市 野中保育園

事務長 中村 章啓

②島田市 五和保育園

園長 山口 学世

③浜松市 子育てセンターなかせ

保育教諭 鈴木貴美子

議長 静岡市立小黒こども園

園長 小長谷妙子

助言者 静岡英和学院大学

教授 永田恵美子

記録者 静岡市立駒越こども園

園長 山田 弘美

発表(一) 子育て支援の場の構築

～対話を基軸とした相互支援の成立援助～

利用者が負担なく参加し安心できる居場所となるよう「学びのドーナツ論」を参考に、向かい合う関係、肩を並べて共通のものを見合う関係、ワークシヨップのような場面がどの様に展開しているのか、また、保育者がどの様なアプローチをしているのか観察した。まず保育者は肩を並べて話し合う関係から始め、初めての利用者は共同作業や肩を並べて行うワークシヨップへの参加が多く、それが継続利用にも繋がっていった。また、保育者

自身がアプローチの意味付けを意識せず無自覚に行っている事が多いことも分かった。今後子育て相互支援へ活用していく。

発表(二) 地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて

～新たな時代の島田市子育てセンターの

活動に向けて～

イベントを求めて出向いて行く利用者の実態がある中「育児中の支えになった」「親自身もリフレッシュできた」という意見が聞かれ、利用者の支えになっている事を実感できたが、親同士の交流や悩みの共有の場が少ないという課題も見えた。また、支援する側の資質の向上と丁寧に関わる必要性が感じられた。園長の責務として職員の育成をバックアップし、心と心をつなぐプロとして、今後も意識改革と広い見識を持ち取り組んでいきたい。

発表(三) 園児と同じ経験を

子育て家庭の親子にも：

～支援ひろばと園が併設している

強みを活かして～

利用者から「園の子どもの生活の様子を知りたい」「行事にも参加してみたい」という声が聞かれ、支援広場と園が併設されている環境を活かし、園の子どもと同じ経験をしてもらう機会を提供してきた。行事や活動を楽しむと共に、子育ての悩みを気軽に相談できる場、園児の生活の様子を見る場となり、家

庭だけでは経験できない事を通して、親自身我が子の新しい姿を見つける事につながった。今後は、祖父母世代との交流も視野に入れ、地域の中で安心して子育てができるように援助していきたい。

助言者より

子育て支援には、保護者が何を求めているのかを知り関わっていく事が重要である。日々取り組んでいる内容でも保護者を意識した関わりが自身の資質向上に繋がっていく。毎日明るい声で親子に挨拶する保育者の支援は保護者にとって最高の心の支えになっている。全ての職員が見守ってくれている事を実感し安心感を得る事ができる。保護者が上から目線と感じない支援を目指してほしい。



第五分科会

テーマ【家庭や地域との連携による

食育の推進】

発表者 ①沼津市 大岡保育所

主任保育士 久松 純子

副所長 高橋 清美

②静岡市立新富町こども園

副主任保育教諭 永野 真実

静岡市ほいく課

保育教諭 遠藤 晶子

③浜松市立佐鳴台保育園

保育士 高森 通榮

浜松市立鴨江保育園

保育士 中村 瑠美

議長 浜松市 れんげ保育園

園長 青山 一子

助言者 NPO法人こどもの森

理事長 吉田 隆子

記録者 浜松市 れんげ保育園

保育士 原田千紗子

発表(一) 家庭や地域との連携による

食育の推進

～食べることは生きること

みんなで食べようあったかごはん

親子での畑作り体験や子ども達と実際に地域の青果店に何度も足を運び、交流を深める中で野菜への興味や関心を深めた。また、ランチョンマットを作成したり、掲示板を呼びかけだけでなく、親子で手軽に参加出来るよ

うに工夫することで、親子での会話のきっかけとなった。「食べる」という生きるうえで大切なことを保護者とともに考えることが出来た。こういった活動を今後も継続し、食に関わるたくさんの方への感謝の心を育てていきたい。

発表(二) 家庭や地域との連携による食育推進

～子どもの眼が輝く経験を通して、

食べる楽しさを広げる～

エピソード記録をもとに、五感を使って「子ども達の眼が輝くような食に関わる体験」が出来た場を設定し、研究した。茶問屋さんで話を聞いたり、園で実際にお茶を入れ、異年齢での交流につなげた。また、園での食育活動を写真にしてお知らせボードに飾ると、子どもと保護者が話すきっかけづくりになった。また、保護者の知りたことを踏まえ、お便りなどで情報発信をしていくことも大切である。園だけでなく、地域とも関わりをもつことで食への興味関心が広がった。

発表(三) 家庭や地域との連携による食育推進

～朝ごはんをたのしく食べて

いきいき子育て～

各家庭が実施したアンケート結果から、保護者からの一番の悩みは「忙しい中での朝食作り」であると考えた。アンケートの保護者からの意見を踏まえ、毎月のお便りにコラムや簡単な朝食メニューをレシピ化して掲載した。お便りは園内に留めず、地域へも発信す

ることで情報をさらに広げることが出来た。また、保護者の保育参加を通して、園での活動量や食事の様子を保護者に見て感じて頂くことで改めて朝食の大切さを伝えることが出来た。

助言者より

どの発表もとても素晴らしく、各園での取り組みを是非継続してほしい。子どもにより良い環境をつくる為には周りの大人（保育士・栄養士・保護者）の連携が最も重要である。また、保護者へのお便りは ①イラストや写真 ②子どもの様子をいきいきと伝える ③カラーにする ④文字を大きく読みやすく ⑤これなら出来ると思えるやさしい文章といった五つの視点をとらえること。保育園という「大きな食卓」を、是非皆さん楽しんで下さい。



第六分科会

テーマ【子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク】

発表者

①伊東市 八幡野保育園

主任保育士 鈴木 直子

②静岡市保育園連合会運営委員会

沼上保育園

園長 森下 健二

③掛川市 子育てセンター

さやのもり保育園

保育士 高林 弥生

議長

熱海市 多賀保育園

副園長 原田 昌徳

助言者

横浜創英大学

教授 田中 浩之

記録者

沼津市立ときわ保育所

副所長 藤池 恵弓

発表(一) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

保育園がネットワークのパイプ役として、

幼・保・小の計画的な交流を行ってきた。

幼稚園、保育園の五歳児が、同等の保育レベル

にあるのか、それを段差なく小学校に滑らか

に移行できているか。また、小学校から中

学校へのギャップ防止へと続く、伊東市にお

ける連携プログラムが発表された。

幼・保・小・中のみならず、医療・世代間・

地域との交流も重視し、子どもの育ちを多方向から支えたいと願う取り組みであった。

発表(二) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～子どもと保護者を取り巻く様々なこと

から見えてくる保育所の役割～

静岡市の各保育園でアンケート調査を実施

し、現在の子育てについて、保護者のニーズ

を探った。問題点として保育士と保護者のコ

ミュニケーションの重要性を確認した。

保護者とのコミュニケーションが良い形と

なるよう保育士の資質を高め、専門性の向上

を目指し、様々な思いで子育てしている保護

者と向き合えるようにしたい。

国のキャリアアップ制度の利用を推進し、

県保連、その他の研修の充実を希望する。

発表(三) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～一人ひとりの個性を大切にしたい

保育実践に向けて～

幼保一元化に伴う幼稚園、保育園再編で開

園した幼児園での保育実践。支援を必要とする

子どもと保護者に向けて、利用可能なサポ

ート資源を最大に生かし、本来に必要な支援

を多角的視点で考え、職員間の共通理解の為

にワークシートを利用している。

プライバシーに配慮しながらいかに情報共

有していくのか、保護者と協働し、子ども中

心に考えていく為に安心感のある信頼関係の

構築をネットワークに加味する必要がある。

助言者より

小学校の先生は幼保に学ぶ必要があると思

われる。人の話を聞けるようになる、発達の

前段階を育てる技術の実際を見ると、小学校

での子どもへの接し方が変わる。お互いを知

る交流の大切さを各発表から感じられた。

自分の市町では当然のこととなっているネ

ットワークシステムも他市にとっては新しい

発想を得られるものである。研究テーマを与

えられたことにより、保育を見直し、多角的

に考える良い機会になった。



第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて】

～保育の営みを

いかに社会に発信するか～

発表者 ①富士市公立保育園長会

杉の木保育園

園長 上田 申子

富士市こども未来課

参事補兼主幹 高橋 久子

②焼津市 たかくさ保育園

主任保育士 山岡かづ絵

③湖西市 微笑保育園

園長 河田 宗康

議長 袋井市 ルンビニ保育園

園長 岡田 泰稔

助言者 常葉短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者 牧之原市 細江保育園

園長 横山 滋子

発表(一) 子育ての喜びや楽しさを

いかに社会に発信するか

富士市の公立保育園では、「子育てにやさしいまち」に向けた支援事業として、保護者対象に親育ち支援、保育者一日体験事業を行っている。また、若者の子育て・保育への関心を高める取り組みとして学生の保育体験ボランティアの受け入れ、キャリア教育のための職場体験・職業講話講師派遣を行っている。

地域社会の現状や子育て環境に常に関心が持て、専門職としての役割を再認識できる活動である。今後も人を育てることの重みや尊さを社会に発信し、保育力向上につながる社会資源として、公立保育園全体で取り組んでいきたい。

発表(二) たかくさ保育園における現状と課題

園からの保育発信方法やその効果について系統立てて考え、定義づけや目的を明確にしたシステム作りから始めた。保育園の役割として子育てのノウハウを提供するため対象者や目的を絞って整理した。そこから園の保育発信とこれからの課題と展望が見えてきた。職種による役割分担をし、自分たちの園で何を目的として何を実践するか明確化し、発信のサイクルを確立できるシステム作りを確認した。明確な課題意識を持つことが、充足した社会化への取り組みの第一歩であると確認できた。

発表(三) 保育の営みをいかに

社会に発信するか

子育て支援事業としてベビーマッサージや子育て講演会、わくわく広場開放を行い、母親同士の交流の場を作り、子育てを楽しめる活動を伝えている。昔から地域とのかかわりは深く、畑で収穫体験・高齢者とのふれあいや地域行事への参加などを大事にしている。また、ホームページの充実と発信により保育の営みや子育て支援情報をわかりやすく発信

している。保護者以外の方にも園への問い合わせが増え、学生も活用している。地域密着型の活動を展開することで、地域と保育園がより良い関係作りができていく。

助言者より

「社会への発信」というテーマが全体で共有できた分科会であった。発表一は、公立園の次世代を担う若者の子育て・保育への関心を高める活動報告、発表二は自園の保育の発信を系統立てて捉える試みに関する報告、発表三は地域密着型の取り組みとHPの活用等の実践報告と、それぞれの観点が提示された。結果、相互作用を生んで、参加者の理解と今後の具体的な取り組みに向けての多様な示唆が得られた。そして、発表二が提示した「知ってもらおう・理解協力してもらおう、そして参加してもらおうための方法としての行為」であるという発信の定義をフロア全体で確認することができた。



第八分科会

テーマ 【公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

発表者 ①清水町立清水保育所

所長 遊佐まゆみ

②静岡市立蒲原西部こども園

園長 望月 寿子

③磐田市立竜洋東保育園

園長 飯田 幸子

磐田市立豊田南第二保育園

園長 大石 洋恵

議長 浜松市立笠井保育園

園長 阿部 眞弓

助言者 東海大学短期大学部

教授 徳浪 芳江

記録者 浜松市立鹿島保育園

園長 山本 玲子

発表(一) 公立保育園の使命と

地域社会での役割

～未来輝く湧水(ゆうすい)の子を

みんなで応援しよう～

基本理念を達成するために様々な視点から現状を把握し、子どもにとって良質な教育・保育の提供に取り組んできた。職員の園内研修では、実践にすぐ繋がるように、回覧だけでなく短時間研修を取り入れた。また「親子」を実践し、保育参加に講演会を組み込むことで、保護者と園との結びつきを深めるこ

とが出来た。また地域との絆づくりにも力をいれた。保護者支援において、園だけでは対応できないことを行政や他機関と協力していきたい。

発表(二) 公立認定こども園の使命と

地域社会での役割

～公立小学校との継続に向けて～

三年前静岡市は全公立保育園・幼稚園を幼保連携型認定こども園に移行した。こども園から小学校への切れ目のない教育環境の充実を目指し、小学校との接続が求められている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼小の連携の中心とし、出前授業の実施、職員の資質向上のための合同研修や子どもの交流を進め、アプローチカリキュラムを作成した。今後も専門機関との連携や小学校接続強化に努めたい。

発表(三) 公立保育所・公立認定こども園等の

使命と地域社会での役割

～連携と協働による質の高い教育・

保育の提供～

新保育制度の目的である「質の高い教育・保育の提供」するためにはどうしたらよいかを課題として取り組んできた。公立幼保子ども園の合同園長会の実施や合同職員研修を含め、お互いの保育を見合い、語り合い、研修を積み重ねることが保育力の向上に繋がりを、養護と教育が一体となった質の高い保育ができた。子どもを中心として、園・家庭・地域

の全ての方が協働していく事が大切である。

助言者より

どの発表にも共通することが、「地域に根ざす」「保幼小接続」「質を高める」の三点であった。地域で未来の人を育てると考えることですべてがうまくいく。公立の使命は公私立の枠を超えて研修し、話し合い、みんなを同じ方向に向けるための牽引役となることである。質を高めるためには、園がどのような方向に進みたいかを明確にし、アピールすることが大事。そうすれば具体的にやることが見えてくる。また職員が一致団結して一人一人が意見を出し合うことが重要である。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

「新たな時代の保育実践」すべての子どもに向けて」をテーマとした三つの園の取り組みを聞きました。その中でも運動遊びや地域の文化など、各園で異なる実践内容となっていました。どの園も子どもの現状を把握したうえでねらいと計画が明確に立てられていて素晴らしいと思いました。

特に印象に残ったのが、運動遊びについての取り組みとしてお散歩マップの作成や全園児による毎朝のマラソンのみならず実際に山の中へ入って探検に行くなど、自園ではなかなか出来ない取り組みをしていたことです。私は一歳児の担任をしているのですが、山に入ってお尻を着けて斜面を下るなど、一歳児でも全身を使った運動が出来るのだと改めて感じさせられました。ケガに対して過敏になり過ぎず、様々なことに挑戦させてあげたいと思います。

研修で学んだことを生かし、より良い保育が提供できるように日々精進していきたいと思っています。

袋井ハロー保育園 松井 遥香

第二分科会

日々、園全体の子ども達と接し、担任のサポートをする立場として、支援・援助をしています。対応に不安を抱くことがある中で研修に参加させて頂きました。

配慮を必要とする子ども達の気持ちを理解し、その子にあった関わり方をすることが最も大切であり、常に保護者の気持ちに寄り添いコミュニケーションを取るように心掛け、職員間で共通理解をする事の大切さを、発表者・助言者の方達のお話を聞いて改めて感じました。

アセスメントシートを活用することにより細かく職員間で共有でき、担任以外でも同じように保護者と接する事が出来ること知り、一つの方法として考えると共に、一人ひとりにより一層丁寧に保育・支援を行っていききたいと思っています。

緑ヶ丘保育園 牧田みゆき

第三分科会

関東ブロック研究大会に参加する御殿場市は、全園が一緒に研修する場を設け、園内研修を集約した通信「Step UP」を発行し、

お互いに情報を交換しながら研修を進めていました。その発表を聴いたり、助言者の先生のお話を聴き、課題を見つけることができました。

保育園やこども園など、この職に就こうとする人が少ない中で、園の風土を大切にしながら、職員が「楽しく」「長く」働くことができる環境作りを心掛けたと思います。

その中で、同じ職場で働くことができる出会いに感謝し、全職員で現実の問題を出し合い、一人ひとりが考えながら研修を行うことで、職場環境の改善とやる気に繋げ、資質向上を図っていききたいと思います。

いずみこども園 小杉 康子

第四分科会

「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」というテーマで三園の発表を聞きました。園の役割、機能を生かした取り組みや活動の振り返りなど、様々な発表を聞き、保護者は親子の交流の場を求めている事や孤立感のある家庭へのアプローチが重要になっている事などがわかりました。

助言者の永田先生のお話では、大学にある「親子広場」に来る保護者が、学生に先輩として教える姿が見られること、保育園では明るい挨拶が最高の心の支えになっていると聞いて、母親が主体性を発揮できるような環境づくりが大切だと感じました。

そして、日頃の挨拶や声かけなど自然な関わりを大切にして、保護者や地域にとって、安心して子育てできる様な取り組みをしたいと思っていました。

萩間保育園 下村千代子

第五分科会

「家庭や地域との連携による食育の推進」というテーマで各園の様々な取り組みを聞き、食育を通して身近な人と関わることで、食への関心が高まり、豊かな経験になると感じました。

また、どのように連携をしていくかについて、食に関する家庭の悩みや、地域の特徴から、取り組み方を工夫することが大切だと学びました。特に家庭との連携では、発信していただくだけでなく、親子で会話をしたり、一緒に料理をする機会を作ること、食に興味を持つきっかけになると学びました。

園内での活動にとどまらず、家庭や地域を視野に入れ、よりよい活動が展開できるように考えたいです。

ふたば保育園 増田穂奈美

第六分科会

「子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク」というテーマで話し合っ

た。今の時代、子育てをする上では、保育園だけで子ども達の育ちを支援するのは難しく、保護者支援が必要になる事も多いため、保育園が中心となり外部とのネットワーク化を図ることで、地域と一緒に子育て親子の育ちを丁寧に見守っていきける、ということに改めて感じた。

保育者は「見る・観る・視る・診る・看る」と常に五つの見方をしている。子ども達をみているようで実際はみえていない、気付きがあることで初めてその子が見えてくるということを学んだ。見方を少し変え、子どもたちのいろいろな変化や成長にしっかりと気付いていける保育者になりたいと思った。

島田市立第一保育園 小澤 恵理

第七分科会

次世代に子育ての喜びや楽しさをいかに発信するか検証して見えてきたこと、また、職員全体で日常の保育を科学的かつ論理的に説明できるためには、自園の保育の社会化を明確にしておくこと、そして、保育所の特性を活かした地域密着型の取り組みやホームページを活用し社会に発信していくこと等、発表を通して多角的な視点からテーマを捉えることができました。

最近、メディアを通して保育所・認定こども園が注目され、様々なネガティブイメージが生まれることも少なくはありません。

いかに、保育の素敵な雰囲気は伝わるか？ 保育所・認定こども園と地域社会の人と人がつながる保育の中で、子どもたちが健やかに育っていることを、職員全体で実践や評価を繰り返し、その成果を見える化した方法で発信をすること。それが今、保育所・認定こども園の役割として求められ、子育ての社会化にも広がっていくことを、改めて学ぶことができた分科会でした。

六合第一保育園 中野 恵子

第八分科会

来年度認定こども園開設計画中である自園に於いて、第八分科会の研究テーマが最もタイムリーな研究内容でしたので「公立保育園」とありましたが、勉強させて頂きたく参加しました。司会者の先生のご配慮で、認定こども園の先生方のお話を伺う事が出来、まず『認定こども園』についての知識がメディアや、ネット等で発信されているデメリット面ばかり目が向いてしまいがちで、メリットや保育者としての意識の向上に欠けていた自分に気付かされました。よって、自己研鑽をしながら質な教育、保育を提供することが、認定こども園開設にあたり、一番大切なことではないかと思いました。

楽生保育園 伊藤久美子

新規採用予定職員研修会

東部支部

月日 平成二十九年二月二十二～二十三日
会場 三島市 箱根の里少年自然の家
参加者 五六名

東部支部では、三島市箱根の里少年自然の家で一泊二日の日程で行いました。

開会式終了後すぐに野外活動のポイントラリーを行い、昼食は飯盒炊飯でカレーを作りました。野外活動、飯盒炊飯という協同活動で、班の仲間とのコミュニケーションも深まり、活動にまとまりができました。

一日目の午後の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を教えてくださいました。

また、夕食後に行われた交流会の「室内オリンピック」では、実行委員によるお楽しみのもと、研修生は生き生きとした表情で競技に取り組みました。

二日目の講義は「保育園にとって一番大切なこと」を県保育所連合会 内藤栄一副会長、「保育士にとって一番大切なこと」を、県保育士会 吉川慶子副会長よりそれぞれ保育園、保育士の使命と役割、職員としての基礎知識を教えてくださいました。

そして、「SNS

S利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」をNPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表長澤弘子先生より、近年問題になっているSNS利用時の倫理観や危険性をわかりやすく教えていただきました。

最後に「現場からのアドバイス」

(保育の楽しさを知ろう)と題して、ワークショップを行いました。グループでの活発な討議や、実行委員の先生方のアドバイスを真剣に耳を傾けていました。

この研修を通して改めて社会人になるという自覚を強く感じたことと思います。

社会人として、また、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 富士宮 富丘保育園

足立和俊



中部支部

月日 平成二十九年二月十四日～十五日
会場 静岡県立焼津青少年の家
参加者 八四名

焼津青少年の家に十四日の朝、バス二台が到着しました。おはようございますという元気な声と共に、荷物を抱えた研修生たちが入ってきました。いよいよ研修会のスタートです。初めに研修所員さんの挨拶、オリエンテーションがあり、研修生は緊張の面持ちで聞いていました。この研修では、各班十名程度の班別になり、それぞれ班長や食事係等の役割を決めて二日間集団行動を取ります。講義一は、神野博行中部支部長の「保育所等の使命と役割」というテーマで、保育所等の法的な位置づけや社会的な使命と果たす役割などについて講義がありました。

講義二では、海野美代子県保育士会中部支部長から「保育者としての役割」というテーマで、保育者として勤務規律や危機管理意識について学びました。実際に講師の保育園で起こったことの話には真剣に耳を傾けていました。また、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿や活動している様子をDVDで見せてくれました。午後には、以前にこの研修会に研修生として参加し、現在焼津の明星保育園で保育士をしているお二人から実際に体験している仕事のお話を聞かせていただき研修生は興味深そうに聞いていました。その後は、

同じ明星保育園の櫻井英世園長先生の手遊び・歌遊びの実技指導があり、研修生は身近に感じて楽しそうでした。次に、今年度はウォークラリーを初めて取り入れました。四キロコースを各班がコマ図を持ってチェックポイントを通過するもので、早いグループは一時間程度で戻ってきました。ただ、各チェックポイントに立ってもらった実行委員には少し寒かったようでした。

夕食後は、各宿泊室で、実行委員が研修生の不安や悩みを聞いて助言や勇気づけをしてくれて貴重な時間を持つことができました。その後は各班の班長さんと実行委員が集まり一日目のまとめの話し合いをしました。

二日目は朝の集いの後、講義三、「素敵な紙芝居の世界」というテーマの研修を行います。そして最後の講義四は、土方良子先生による「私が目指す保育者を明確にする」というテーマでした。少人数のグループになって



自己紹介をしたり、テーマを決めて話し合いをしたりと一人ひとりが積極的に関わりを持つようにしていく雰囲気作りは印象的でした。研修生にとっては初めての集団生活、また時間に厳しい盛りだくさんの研修でしたが、なかなか体験できない貴重な二日間だったと思います。この体験を四月からそれぞれの職場で生かし、くじけずに常に希望を持って頑張ってくれる様、期待します。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。

実行委員長 ゆりかご保育園 神野博行

西部支部

月日 平成二十九年二月十五日～十七日
会場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 百三名

二日目、県保育士会下原会長の講義。保育者としての自覚と責務を学びました。続いて現代だからこそ必要な「SNS利用時の倫理感」。午後はしつかり体を動かして、夜は「現場からのアドバイス」二日間で深まった絆は、率直な意見・疑問など言いやすい環境を作り、時間いっぱいまで先輩方からたくさんのお話を聞きました。

三日目、「社会人として一番大切なこと人間関係と服務接遇」二日間の講義を受けたうえで、これから保育士・保育教諭になるという自覚が芽生えてからの講義に、研修生の意識も違ったのではないのでしょうか。世の中には様々な園があります。もし、挫折したら、新採研での気持ちの思い出ししてください。そして、職場を変えたとしても、この素晴らしい仕事に誇りを持って生涯続けて欲しいと思います。社会人として、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待します。

実行委員長 ルンビニ保育室花びら
野中 徹



平成二十九年 保育士養成校と静岡園保育所連合会との 意見交換会 開催される

平成二十九年六月十五日に静岡音楽館A O Iにおいて、県保育所連合会の正副会長及び研修委員と保育士養成校一六校との意見交換会が行われました。

後藤会長の挨拶の後、静岡県社会福祉人材センター人材課村松主任より、活動内容の説明がありました。

その後、より濃密な意見交換会となるように、静岡県を東と西の二つに分け、意見交換を行いました。

(後藤静岡県保育所連合会会長挨拶)

現在、国は保育の量を増やすために力を入れ、現場は保育士不足に陥っている現在ですが、最近になってやっと国は質の充実にも目を向け始めました。保育士の処遇とセットと質の充実を図る方向で動き始めました。

静岡県の離職率は全国に比べ低いが三年以内に離職する比率は一〇パーセント程度もあります。三年過ぎから一人前になるのに、退職してしまうとそれまで育ててきたことが無駄になってしまいます。質を高めるためには長く勤めることができる職場であることが大切と考えているので、この意見交換の場を意義あるものとしていきたいと思えます。

(養成校参加者からの発言)

- ・企業立園（県内外問わず）からの求人時期が早い。
- ・就職後に離職をさせないように指導を徹底している。企業立への就職者に早期離職が増えているようだ。
- ・一般企業への就職者でも保育の資格を活かすような就職先（歯科助手兼保育士等）を選ぶ学生へのアンケートによると、責任のない仕事に就きたい傾向がある。
- ・大学では真面目な学生が、実習先で臨機応変に動けず苦労をしている。大学で心配な学生が実習先で気付いて動いている。二パターンの学生がどう伸びていくのか、頑張ったことは認めて忍耐強い学生を育てたい。
- ・実習で自信をなくして、三年生の頃現実を見て一般企業を希望する学生がいた。
- ・就職の内定が早くなっている。
- ・学生が内定をいただくと安心してなのか勉強に身が入らなくなっている。
- ・愛知県は、連盟・養成校が求人時期を決めてそれを守る。九月の実習を終えてそれ以降に採用試験を実施している。
- ・インターンシップなどで現場体験すると離職率が低い傾向にある。
- ・インターンシップは施設側もありがたい。学生の本質も見える。

(保育所連合会参加者の発言)

- ・職場の魅力発信について
- ・企業立の園には大量に就職していく現実がある。
- ・保育施設の魅力発信力が低いことは受け止める必要がある。アピール方法や実習以外の現場体験が必要。
- ・職業紹介業者に登録して就職先を探すことをしないよう学生に話をしていただきたい
- ・話し言葉が活字になっている。本を読むなど活字を読むことをしてほしい。
- ・社会人として出ていく学生に優しく寄り添うのは分かるが、時と場合をわきまえず、フレンドリーに育っている。先生と学生の関係はわきまえてほしい。
- ・県の奨学金が五年勤めると免除になるのを学生は知っているのか？メリットになることを高校生に伝えてほしい。





(その他の発言)

- ・園行事へのボランティア参加等 すでに実施している例などもある。特に幼稚園などは行事へのボランティア募集を養成施設に送ってくることもある。
- ・養成校としては、直接チラシなどを送ってもらえば、学生に紹介できる。気楽に園の行事を体験できる方法が学生にとって敷居が低くなる。保育施設からのウェルカム姿勢が見えるとなおありがたい。
- ・学生も実習ではない立場で、気軽な日常の保育への参加を希望する学生が多い。
- ・メディアが保育現場は三Kのような報道をすることから、保護者が保育現場への就職を心配するようになった。
- ・特に男子学生は就職課も明るい見通しを示すことができない。業界全体で状況の改善をしていくことが必要ではないか？
- ・採用時期が一般企業より遅い傾向にあるた

- ・注意されると明らかに不機嫌な顔や態度をとる。また敬語の使い方が分からない。
- ・ルールで決められたことは素直だが、マナーが分かっていない。

- め、周囲の内定者と比べ不安感を持つ。
- ・親の指向が一般企業、公立園、公務員であることから親へのアピールが必要か？
- ・中高生で保育現場体験をして保育士を目指す学生は養成施設(校)で現実の壁(勉強、実習等、子どもと楽しく遊んでいるだけではない)に直面する。
- ・養成施設(校)のルールとしては就職活動は一園ずつと決めている

(離職した場合のフォローについて)

- ・卒業後のサポートと離職した保育士への就職先の斡旋は園からの求人と養成施設(校)の情報のタイミングがマッチする必要がある。お互いに情報不足か？
- ・早期離職の場合は養成施設(校)にも相談がある。卒業後も使える学内メールアドレスを使い、状況をほぼ把握している。
- ・卒業生が離職した職場へ、同じ養成校からすぐに斡旋することへの葛藤がある
- ・県などで、一元化された求人情報があれば活用したい(保育士人材バンク等)

離職の原因

養成校の意見

- ほぼ九割が園内の人間関係を原因としている。対保護者 対保育士等
- 時間の制約(夕方の勤務、土曜の研修、書類)
- 労働に見合った処遇

保育施設の考え

養成校へのお願い

- ・キャリアアップ制度の開始に伴い、県内で保育士への研修数を増やす必要があるが、県保連、保育士会、社協だけではまかないきれない。会場、講師をセットで養成施設(校)で開催可能か検討してほしい。
- ・養成施設(校)から保育施設へ
- ・学生個人の資質や感覚が変わってきているが、実習方法に昔と変化はあるか？
- ・ストレス耐性に弱い学生、人間関係に関しても自己復元力が弱い。
- ・年齢差などの感覚のギャップを実習生から聞くことがある。
- ・厳しく言われると、折れやすい。比較的怒られたことのない子が多い。
- ・実習で優しくされ、就職した時(仕事)とギャップを埋めることができず、離職に繋る。



各研修報告

施設長研修

期日 平成二十九年一月二十六日(木)
会場 清水テルサ

講義①は、「実習生そして保育者の実践力・専門性を高める実習指導 人を育てることとは、保育者自身が育つこと」と題し、東京家政大学児童学科教授の増田まゆみ氏にご講演を頂きました。実習指導の意味とは、保育者にとっては保育の省察・評価に繋がること。保育現場にとっては質の高い人材確保・育成に繋がること。学生の現状を考えながら、実習指導も重要である事を改めて考えました。

講義②は、静岡県保育所連合会の後藤弘明会長による「保育情勢報告」。様々なデータを基に政府の施策から保育士の処遇改善などの説明をして頂きました。

講義③は、「子どもの最善の利益を考慮する保育の実践と職員のキャリアアップ」と題し、東京家政大学特任教授の網野武博氏にご講演を頂きました。子どもの権利、最善の利益を守っていく為には、「大人の思いやニーズ、欲求の方が満たされて子どものそれが蔑ろにされていないか」「子どもを一人の人間として尊重し、人間の尊厳を重んじる心や行為を疎かにしていないか」の二点を振り返る必要がある事をお話頂きました。また、保育士のキャリアアップに不可欠な専門性の向上と確立にあたって、子どもの最善の利益の考慮（確保）は初任者の段階から重視されることでした。

新規採用職員研修会

期日 平成二十九年六月六日(火)
会場 静岡県総合社会福祉会館

平成二十九年年度新規採用職員研修会は、百二十九名の参加で開催されました。

講義①「保育所等の使命と役割」では、静岡県保育所連合会の後藤弘明会長から、保育・教育施設のこれまでの存在意義と、これからの人口減少社会において求められる役割を、「子どもの最善の利益」「子どもに関わる大人の幸せ」をキーワードにお話しいただきました。

講義②「保育者の使命と役割」では、静岡県保育士会の吉川慶子会長から、全国保育士会倫理綱領を基に保育者として、そして社会人として求められる、また期待されていることについてお話しいただきました。

講義③「『新人保育者』の責任とプライド―責任重大！かわいい子どもたちの人生が―」では、小田原短期大学学長の小沼肇氏から、「心で聴いてほしい」との前置きの後、現代の子どもたちが置かれた困難な状況と、そこで求められる保育者の資質（人間性・感性・意欲など）についてお話しいただきました。グループ討議では、現場での二か月の保育を通して得た喜びや悩みなどを共有し、活発に情報交換しました。

青年部会総会・シンポジウム

期日 平成二十九年六月九日(金)
会場 静岡音楽館AOI

一部では「実践事例から学ぶ教育・保育の質」をテーマにシンポジウムが、二部では「定性的変化に基づく質の向上」のテーマで講演が開催されました。

一部では中部・有度十七夜山保育園の笠井友泰先生から、子どもや親に有用で選ばれる園になるために、理論、設備、人の三本柱を整備していくことの必要性や、保育士が経営への理解や審美眼を持つ事の大切さ等が話されました。東部・慈恩保育園の土山龍之先生からは、山や海など自園の周囲の自然を積極的に保育に取り入れ体感する中で、様々な学び力を育てたり、物を大切に作る気持ちなどを醸成する取組が話されました。西部・微笑保育園の河田宗康先生からは自然となかよしのキャッチフレーズの元、園外保育など身近な自然を通して子どもの主体性や環境を通して行う保育、非認知能力を高める保育を実践している事や、活動の先を読む自園の保育士の質の高さ等が話されました。

二部では志賀口大輔先生より、キャリアパスの政策的背景や内容、幼少期に質の高い教育を行う事の効果が話されました。また、定量的な質の向上だけでなく、定性的変化として専門性の向上を進めていくと共にそれを見える化し、システムや組織全体の最適化を図ることが急務であるとの話がありました。

研修委員会

委員長 ひとまこども園 山田佳敬

本年度上期に開催の所長研修会と新規採用職員研修会も盛会のうちに終了致しました。皆様のご協力に感謝致します。又、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。

来年度に改定を控えた保育所保育指針の中では、質の高い保育を展開するため、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図るよう努めなければならず、施設長にも保育の質及び職員の専門性の向上のために必要な環境と、体系的・計画的な研修機会の確保が求められています。当委員会としては、これらが達成される一助となるよう、研修会を開催してまいります。下期の研修会は次の通りです。

- 民間園長研修会（アクトシティ浜松）
平成二十九年十月二十六日～二十七日
- 育児相談研修会
 - ①西部地区（アクトシティ浜松）
平成二十九年十一月七日（火）
 - ②東部地区（沼津市民文化センター）
平成二十九年十一月十四日（火）
 - ③中部地区（県総合社会福祉会館）
平成二十九年十一月二十八日（火）
- 施設長研修会（清水テルサ）
平成三十年一月二十四日（水）
- 新規採用予定職員研修会
平成三十年二月中旬から下旬

（会場は各支部の研修会場にて）

保育士のキャリアアップ促進検討特別委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

平成二十九年度の公定価格が示され、新たに『技能・経験に応じた保育士等の処遇改善』が創設されました。

静岡県保育所連合会ではこれまで、特に研修委員会において対応を検討してきましたが、従前の研修会の運営を担う傍らでは研修体系の調整構築にまでは至らず、今年度より『保育士のキャリアアップ促進検討特別委員会』を設置し、静岡県子ども未来局にも御同席頂き、六月十二日に第一回の委員会を開催致しました。

冒頭未来局の方から、国の示す制度内容を元に構築された『ふじのくに型保育士キャリアアップモデル』についての説明を頂き、委員からの質問を受ける形での委員会運営となりましたが、県としても即答できる内容ばかりではなく、県主催のセミナー（中部三月十五日・東部六月二十二日・西部六月二十九日）での質問と併せ、国に確認を取って頂く事となっています。

行政の想定する所と現場の考え方には乖離があり、未だ形の見えないところはありますが、現場を支える保育士の処遇をより良くして頂ける制度と捉え、多くの会員の声を行政に伝えていこうと思えます。

広報委員会

委員長 麻機保育園 鈴木克明

広報委員会は、平成二十九年度に入り、多くの新しいメンバーを加え、現在は既に「ほいく静岡八〇号」の編集に入っている所です。広報委員会の主な活動は、ほいく静岡の夏号、冬号の発行において、県内の保育園や子ども園の紹介や色々な研修会、保育研究大会等の事業実施状況の報告がメインとなっておりますが、今後は静岡県保育所連合会のホームページ等のリユースも含め、皆様により良い情報を発信していけるように努めていきたいと考えております。



各支部だより

東部支部

支部長 白道保育園 土山雅之

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十九年五月十九日(金)
会場 沼津市民文化センター 大会議室
講師 絵本作家・鳥の巣研究家 鈴木まもる氏
内容 「絵本と鳥の巣の不思議」
- 二、中堅保育者研修会
期日 平成二十九年八月三十日(水) 〓三十一日(木)
会場 三島市箱根の里少年自然の家
- 三、保育の日研修会
期日 平成二十九年十月二十一日(土)
会場 富士宮市民文化会館
- 四、民間部会県外施設視察研修
期日 平成三十年一月中旬
視察先 未定
- 五、行政部会研修
期日・会場 未定
- 六、青年部会研修
期日・会場 未定
- 七、新規採用予定職員研修会
期日 平成三十年二月二十二日(木) 〓二十三日(金)
会場 三島市箱根の里少年自然の家
- 八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 一番町保育園 海野美代子

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十九年五月十二日(金)
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 白梅学園大学学長 汐見稔幸氏
演題 「これからのこども園・保育園の課題と園長の役割」
- 二、中堅保育士等研修会
期日 平成二十九年九月十五日(金)
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 諏訪保育園 島村一男氏
演題 「保育記録を通じた関係づくり」
- 三、保育所職員等研修会
期日 平成二十九年十二月十三日(水)
場所 静岡県立焼津青少年の家
講師 焼津青少年の家所員
- 四、新規採用予定職員研修会
期日 平成三十年二月二十日〓二十一日
場所 静岡県立焼津青少年の家
- 五、各地区・青年部会事業
各地区・青年部会の事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十九年五月十二日(金)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 コミュニケーション・ホーム喜舎 代表 生利喜佐男氏
- 二、中堅職員研修会
期日 平成二十九年六月二十八日(水)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 静岡県幼児教育センター 藤本眞二氏・福井孝子氏
- 三、男性職員交流研修会
期日 平成二十九年八月四日(金)
場所 クリエート浜松
講師 なごみこども園 園長 志賀口大輔氏
- 四、初任職員研修会
期日 平成二十九年九月十四日(木)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 NHK Eテレ体操指導 藤原明美氏
- 五、小児医療研修会(予定)
期日 平成二十九年十月十六日(月)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 (未定)
- 六、新規採用予定職員研修会
期日 平成三十年二月十四日〓十六日
場所 静岡県立三ヶ日青年の家

園および園児をさまざまなリスクからサポートします

園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。



ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
 「園児団体傷害保険 (学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」
 「特別保育事業賠償責任保険」など、
 園経営におけるリスクに関する保険をラインナップしています。
 また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障共済制度

園児を24時間補償する共済制度
 (総合生活保険 (こども総合補償)) です。
 団体契約による割引の適用で割安な掛金で
 補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定
 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ
 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)
 東京海上日動火災保険株式会社
 担当課：公務第二部 文教公務室
 TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりませんが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

16-T20321 2016年12月作成

さまざまな危険からお子さまをお守りする

『園児総合保障共済制度』

キッズカード (こども総合保険)



AIU損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には
 予測できないことも多く、何かとお心づかいの
 ことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか
 予想もつかない事故の、確かな“まもり”とし
 て本制度をお届けいたしております。

静岡営業支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1
 富士火災静岡ビル5階
 ☎：054-686-1150
 浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2
 浜松アクタワ-15階
 ☎：053-454-0321
 沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町2-10-14
 三井生命沼津大手町第2ビル2階
 ☎：055-963-8081



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
 保育環境の未来を提案する。
 それが、私たちの仕事です。

株式会社 **シャクエツ**

保育士の人材紹介・派遣

OSUKA アスカグループ

保育士求人ポータルサイト

保育情報どっどこむ

くわしくはwebで

東京・横浜・相模原・八王子・大宮・宇都宮・高崎
つくば・新潟・大阪・福岡・広島・名古屋



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



“Warm Heart”
～ありがとうの連鎖を～



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.054-255-1919 FAX.054-252-9509

こどもの笑顔がみたいから

安心・安全な
保育園用おやつ



全国の保育園から
お使い頂いています



株式会社サンワールド

<静岡支店> 〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17

TEL054-256-6332 <http://www.sunworld-honsha.co.jp>

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

保育所「ICT化推進補助金」対応!

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します!

園-SiEN(支援)

園児の記録を統合管理します
出席簿・保育日誌・週案・月案等を、
現在ご利用中の書式でデータ管理
できます!

財務会計2017

「新会計基準」準拠!
シンプルに使いやすく、予算～仕訳
～決算まで安心の、財務会計シス
テムです

給与計算2017

「給与実務カレンダー」「職員一覧入
力画面」等、便利な機能を追加して
生まれ変わった、給与計算シス
テムです



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター

株式会社 **ユニテック**

〒420-0911 静岡市葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp



子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム 「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の
事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です!

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで!
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます!

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能!
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます!



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp



三島市 白道保育園 土山雅之
久しぶりの広報委員となりました。
保育の情報を伝える広報誌にし
ていきたいと思えます。

御殿場市 双葉保育園 勝又秀文
二度目の広報委員ですが、気持ち
も技術もまだまだ初心者です。

沼津市 いずみ保育園 十八公浄滋
久方ぶりの広報委員会で編集作業でした。教え
ていただき何とかできました。N勉強になりました。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明
メンバーほぼ一新です。新たな気持ちでより良
い誌面を作っていきます。

静岡市 有度十七夜山保育園 笠井友泰
要領を得ないで編集に加わり、大変ご迷惑をか
けました。

静岡市 城北保育園 松田 剛
初めて広報委員となりました。委員の先生と頑
張ります。

静岡市 竜南こども園 太田嶋俊彦
初めての広報委員、顔なじみの先生方と楽しく
編集作業を行わせて頂きました。

焼津市 なかよし保育園 北山 茂
元気ですかあつ!? 元気があれば何でも出来
る!

袋井市 袋井ハロー保育園 鈴木 康
今年の夏はとにかく暑いですが、夏バテせが
んばります。

湖西市 微笑保育園 河田宗康
広報委員一年生 頑張ります!...次号から。

湖西市 真愛保育園 松浦弘太郎
今期で二期目ですが、まだまだ新鮮です。

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。
ホームページ : www.hoiku-shizuoka.org

✉ 投稿先 静岡県保育所連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号
TEL / FAX : 054-251-8873